

参加  
無料

# 教職の「高度化・専門職化」 の世界的潮流

— 相手を操作可能対象とみなすのではなく、  
相手から学ぶ専門家としての教師 —



昨今の教員不足は、労働環境がブラックであるという文脈で語られがちであるが、例えば医師は、労働環境は著しくブラックであるが、医学部の人気はより加熱している。この違いを生んでいるものが、「高度化・専門職化」である。

1990年代以降、世界の教職は、制度面を含めて高度化した。例えばイタリアの保育では、子どもは「子どものままで十分に知的」で、「自分の経験から世界を意味づけることのできる有能な存在」と定義されており、保育士は「子どもが世界の声を聴く、その声にならない声を聴く」専門家、つまり子どもの世界認識から学ぶ専門家として位置づけられている。このことが保育士の地位向上に劇的な効果を発揮し、収入等も跳ね上がった。日本のように「未熟な存在の面倒をみる仕事」と思われている限り、保育や特別支援は専門職とはみなされず、待遇も改善されない。

本講演では、現行の制度のもとでも、日本においてどのような、教職の「高度化・専門職化」が可能であるのかを、全国の先行事例などと世界の事例、そして教育学を接続することを通して、参加者で考える機会としたい。

講師

永島 孝嗣 氏  
(麻布教育研究所)

司会

守屋 淳 (本学大学院教育学研究院・教授)

日時・会場

2024年11月30日(土) 15:00~17:30

(この後引き続き18時から希望者による懇親会を予定)

北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟4階W410教室 (オンライン参加可)

プログラム

【第1部】

15:00~ 趣旨説明・永島先生の紹介

15:05~ 永島先生の講演

16:20~ 休憩

【第2部】

16:30~ フロアからの質疑に対する  
指導・助言

(永島先生・守屋)

17:30 終了予定

お申込み

【QRコード】

参加申込みメールアドレス：moe-endo@edu.hokudai.ac.jp  
メールでお申込みの方は以下の4つの回答をお願いします。

- ①お名前
- ②ご所属
- ③参加方法 (ZOOMか対面かどちらかをお書きください)
- ④懇親会参加の有無 (参加費は¥4,000円程度です)

